IREI,
the Spirituality of the Japanese

慰霊、日本人の精神性

INTRODUCTION

2025 marks 80 years since the end of the Second World War. The Japanese still remember those who lost their lives in that conflict, and pray for peace in the world.

Every country remembers its war dead in line with its own traditions, and Japan is no different. This booklet explains the Japanese tradition of *irei* and how the war dead are commemorated within it. We hope that it will give you a better understanding of the significance of our memorials, 80 years after the end of the war.

はじめに

令和7年は先の大戦終結から80年という節目の年です。80年を過ぎた今も、多くの日本人は先の大戦で亡くなられた人々を悼み、平和な世の中を祈っています。
戦歿者を追悼し、記念する行事は、多くの国々において催されています。それと同じように、私たち日本人は戦歿者の「慰霊」をごく普通の営みとして行ってきました。ただ、日本の「慰霊」は、日本の文化や信仰に深く根差したもので、諸外国の人々にとってはなかなか理解しづらい感覚でもあります。戦後80年となる今日、日本人の「慰霊」について理解を深めていただけたら幸いです。

INDEX

01 Shinto Veneration: Honouring Kami at Jinja ····· P.3
神道の信仰

02 Enshrining Fallen Soldiers ····· P.5
戦歿将兵を祀る信仰

03 Yasukuni Jinja & Gokoku Jinja ····· P.7
靖國神社と護國神社

04 What Is '*Irei*'? ····· P.9
日本人の「慰霊」について

05 The Place Where The Japanese Pray for Peace ····· P.11
日本人が平和を祈る場所

06 *Eirei*: Kami Who Are Enshrined at Yasukuni Jinja ····· P.13
英霊：靖國神社に祀られた神

01 Shinto Veneration: Honouring Kami at Jinja

神道の信仰

Since ancient times, Japanese people have seen the divine energy or life-force of the natural world as expressed in many *kami*, whom they have venerated. Individuals who have made a great contribution to the state or society may also be enshrined and revered as *kami*.

Observing the Shinto tradition includes honouring ancestors as guardians of the family. The Japanese have traditionally enshrined these ancestral spirits at altars in their homes.

Public sites for the veneration of *kami* are known as *jinja*. These sacred spaces are found across Japan even today, and each *jinja* enshrines some particular *kami*. These include *kami* who appear in ancient Japanese texts and historical figures from later periods. Among them are individuals known for their great achievements, such as Emperors, politicians, scholars, loyal retainers, or brave warriors (samurai). Furthermore, some people who died for their community are enshrined as *kami*. Japanese people share the culture of honouring someone or something that showed special ability beyond the norm as a *kami*.

Translation 翻訳

古くから日本人は、神聖な力や自然界の生命力に神々を見出し、崇拝してきました。また、国家や社会に対して多大な貢献を果たした人物も、神として祀られ崇敬されることがあります。

さらに神道の信仰のなかには、祖先を家族の守り神として祀るということもあり、日本では伝統的にそれぞれの家庭において祖先の霊を祀ってきました。

神をお祀りする公の場が神社であり、今日においても、日本の至るところに神社があります。各神社にはそれぞれの神が祀られ、その中には日本神話に登場する神々や後世の歴史上の人物などが含まれます。歴史上の人物には、天皇や政治家、学者、忠臣、あるいは勇敢な武士（侍）など、偉大な功績によって知られる人物もいます。加えて、公のために殉じた人が神として祀られることもあります。日本の社会は、並外れた何かを有する存在を神として祀る文化を有してきたのです。

Commentary 解説

「尋常（よのつね）ならずすぐれたる徳（こと）のありて、可畏（かしこ）き物を迦微（かみ）とは云なり」

江戸時代の本居宣長（もとおりのりなが）という学者によって書かれた『古事記』の註釈書（『古事記伝』）では、「神」のことがこのように説明されています。

日本人は、実在した人物が神として祀られることにさほど違和感を持ちません。また、尾崎行雄が「憲政の神様」といわれ、松下幸之助が「経営の神様」、手塚治虫が「マンガの神様」とされるように、ある分野で顕著な功績を挙げた人や先駆者などが、異名として「○○の神様」と呼ばれることも広く見られることです。

こうした日本語の「神」は、英語の「god」と同一ではありません。多くの外国人にとってのGodはキリスト教のような一神教の創造主であり、神道的な「神」とはかなり印象が異なります。人物についてはキリスト教のなかでも、聖母マリアや聖人らを崇敬（respect）する考えはありますが、崇拝（worship）の対象はGodだけです。このような違いが英語圏でも認識されはじめ、近年では英語でも、神道独特の「神」を表す際は「kami」が一部で使われるようになってきています。

02 Enshrining Fallen Soldiers

戦歿将兵を祀る信仰

As part of this tradition, the Japanese have enshrined the spirits of those who died for the country in various wars — civil wars or world wars — as *kami* since the mid 19th century, regardless of their social position or rank. Today, more than fifty *jinja* across Japan enshrine fallen soldiers, and many other monuments were built in their memory and to honour their spirits.

A *jinja* is not a tomb, and even *jinja* enshrining individual human beings do not house the remains of that person. The same is true of the *jinja* that enshrine fallen soldiers — most of the war dead are enshrined in at least two *jinja* (Yasukuni Jinja and a Gokoku Jinja), and buried in their family grave.

In contemporary Shinto, remembering fallen soldiers at *jinja* and honouring them as guardians of the country and people is a part of the tradition.

Translation 翻訳

このような信仰の一環として、日本人は、幕末以降、内戦や世界大戦などさまざまな戦争で国のために殉じた人々の「御霊（みたま）」を、神として生前の地位や身分の別なく平等に祀ってきました。今日、日本には50社以上の戦歿将兵をお祀りする神社があります。さらに、慰霊のため、多くの碑や塔も建てられています。

神社はお墓ではありませんので、個人をお祀りする神社であっても、その御遺骨を納めることはありません。それは、戦歿将兵をお祀りする神社においても同様です。多くの戦歿者は少なくとも2社（靖國神社と護國神社）に祀られ、家族の墓に埋葬されています。

現在の神道には、戦歿将兵を神社にて偲び、祖国や人々の守り神として祀るという信仰があるのです。

Commentary 解説

よく神社のことは「shrine」と翻訳されていますが、本来shrineとは聖人の遺骨や遺物を安置した聖堂や廟のことを指す単語です。そのため、特に戦歿者を祀る神社であれば、多くの外国人はshrineと聞くと「どこに遺骨や遺物があるのだろう」という誤解した疑問を持ってしまうことでしょう。

世界的に見ても、ギリシャのパルテノン神殿をはじめ神社に近い宗教施設はおおむね「temple」と英語で表現されています。templeは仏閣だけではなく、さまざまな信仰における神殿や寺院などの礼拝所全般を広く指す単語なのです。

「jinja」という言葉はまだ英語として普及している単語とは言えません。しかし誤解を避けるためにも、shrineではなく、きちんと説明したうえでjinjaを使ってゆくことが重要です。

また全国で菅原道真や徳川家康が祀られているように、人を神として祀ることも日本の伝統的な精神性であることを伝えてゆく必要もあるでしょう。

03 Yasukuni Jinja & Gokoku Jinja

靖國神社と護國神社

Yasukuni Jinja enshrines the spirits of more than 2,466,000 people who died in wars after the mid-19th century. This number includes not only soldiers but also samurai warriors who died in the process of modernization as well as nurses and female students who worked in hospitals on the battlefields, and others, no matter how young or old, who died while serving their country in war.

The Gokoku Jinja of each prefecture enshrine the spirits of the war dead who came from that area, and also the spirits of those who died when on duty, such as the men and women of the Self Defense Forces, police officers, and firefighters.

'Yasukuni' means 'Bring Peace to the Nation', and 'Gokoku' means 'Defend the Country'. As the names suggest, Yasukuni Jinja and the Gokoku Jinja were established to express the hope for peace. In 1936, the Vatican recognised their role, notifying Japanese bishops that it was acceptable for Japanese Catholics to participate in ceremonies at these *jinja* to honour the war dead and express their wish for peace. Father Bruno Bitter, S.J. and other Catholic priests maintained this position when they advised the Supreme Commander for the Allied Powers to preserve Yasukuni Jinja after the Second World War.

All countries honour the memory of their war dead through their own customs. In the United States of America, the Vietnam Veterans Memorial and Arlington National Cemetery; in the United Kingdom, the Cenotaph and the Grave of the Unknown Soldier; in Australia, the War Memorial. In Japan, the war dead are honoured first at Yasukuni Jinja and the Gokoku Jinja, through the tradition of *irei*.

Translation 翻訳

靖國神社には、近代以降の戦争で亡くなられた246万6千を超える人々の「御霊」が祀られています。その中には、軍人ばかりではなく、幕末の志士たちや戦地の病院で働いていた看護婦・女学生、さらには戦時中、国の為に尽くし亡くなった子供や年配者たちも含まれています。

各都道府県に鎮座する護國神社には、その県にゆかりのある戦歿者のほか、自衛官や警察官、消防官などの殉職者の御霊が祀られていることもあります。

「やすくに」とは「国を安んずる」、「ごこく」とは「国を守る」という意味で、その名が示すとおり、靖國神社や護國神社は平和を願って創られた神社です。1936年、教皇庁もこれらの神社の役割を認め、日本のカトリック教徒が靖國神社や護國神社における儀式に参列し、戦歿者に敬意を示し、平和への願いを示すことは容認されると日本人司教に対し通達しました。カトリックのビッテル神父らが戦後GHQに対して靖國神社の存続を進言した際にも、この立場を維持しています。

戦歿者への追悼は、全ての国々において、それぞれの慣習により行われています。米国ではベトナム戦争戦歿者慰霊碑やアーリントン国立墓地、英国では戦歿者記念碑セノタフや無名戦士の墓、豪州では戦争記念館です。日本では、慰霊の伝統により、戦歿者はまず靖國神社や護國神社にてお祭りがなされます。

Commentary 解説

諸外国でも、戦歿将兵のための追悼や記念の施設、また追悼記念日が、近代戦争を経験した国家にとって不可欠なものとなっています。しばしば靖國神社や千鳥ケ淵戦没者墓苑と対比される米国のアーリントン国立墓地は、戦歿者らのための宗派を問わない共同墓地です。そのなかの無名戦士の墓には、身元の特定できない戦場の遺体から象徴的な一体が選ばれ、戦歿者らの代表として埋葬されています。これは英国のウェストミンスター寺院境内の無名戦士の墓もほぼ同様です。

先の大戦後の占領期、カトリック司祭のビッテル神父やバーン神父らは靖國神社について、国民的な戦歿者追悼の場であるから保存されるべきであると主張しました。GHQも信教の自由という理念のなかで神道を一宗教と認め、靖國神社は存続されることとなったのです。

04 What Is '*Irei*'?

日本人の「慰霊」について

Like people everywhere, the Japanese mourn over those who have lost their lives. Furthermore, they give comfort to their souls through rituals and ceremonies. This is called '*irei*'.

Irei has similarities to the Requiem Mass celebrated for the dead in Catholicism, but it is not a prayer to God for the repose of their souls. Instead, the rites are performed for the dead themselves, to comfort them directly. Since ancient times, *irei* has been performed particularly for those who died tragically, for example in natural disasters or accidents.

In the 19th century, Japanese fallen soldiers began to be enshrined at Yasukuni Jinja and the Gokoku Jinja and the Japanese have observed *irei* rituals for them in accordance with Shinto traditions ever since. *Irei* for the war dead has taken on a broader meaning, adding prayers for peace for Japan and the world to those for the repose of the souls of the fallen.

Translation 翻訳

世界中の人々と同じように、日本人も命を落とされた人々を追悼してきました。さらに、日本人は祭祀や式典を通じて、その魂を慰めてきました。これが「慰霊」です。
慰霊は、カトリックにおいて死者のために行われる鎮魂ミサに似ていますが、死者の魂の安息を唯一神に対して祈るものではありません。そうではなく、儀式は死者自身に対して執り行われ、その御霊を直に慰めます。古くより、慰霊は、典型的に自然災害や事故といった悲劇的な死をとげた人々のために行われてきました。
近代以降、日本の戦歿将兵らは靖國神社や護國神社に祀られるようになり、以来、神道の伝統にそって慰霊の祭祀が行われるようになりました。その戦歿者の慰霊には、戦歿者の魂の平安を祈ることに加え、日本そして世界の平和を祈るという広い意味もあるのです。

Commentary 解説

一般的に「慰霊祭」は「memorial service」と英訳されます。諸外国における戦歿者などのための追悼行事と、その見た目が似通っているからでしょう。
しかしmemorialは「memory」が形容詞化した単語であることからもわかるように、「記念」や「記録」という意味が主です。そのmemorialや、類語のremembranceが戦歿者追悼に使われるときは、その人や出来事を"忘れない"という意味がまずあり、それに加えて死者に共感し慈しむ感覚が含まれると考えられます。
一方で日本語の「慰霊」には、死者の霊魂を慰め、さらにはその霊魂を祀り、祈りの対象とすることさえ含むことがあります。
欧米のキリスト教的文化のなかでは、死は神の元へ帰る入口であり、死者の霊がさまようという考えもありません。そのため教会でのミサは死者の魂の供養ではなく、Godに対して死者の魂の安息を祈る行事となります。死者の霊を「神」とまで考え、その御霊を直接慰めようとする日本的な「慰霊」の感覚とは大きく異なるのです。

05 The Place Where The Japanese Pray for Peace

日本人が平和を祈る場所

Every year, about 5,000,000 people visit Yasukuni Jinja, people of many religions and nationalities.

On 15th August, the anniversary of the end of the Second World War, Yasukuni Jinja is filled with visitors from dawn to dusk. The war remembered in Japan is known as the War of Greater East Asia, as it began some years before the Second World War, and this day is for remembering the dead from that whole period. At noon, everyone observes a moment of silence to remember and honour the enshrined *kami* and pray for peace. It is a special day for the Japanese.

Yasukuni Jinja and the Gokoku Jinja are places to pay respects to those who gave their lives to build a peaceful country. Furthermore, they are places to pray for the continuing peace and prosperity of Japan. This is the reason why many people visit Yasukuni Jinja and the Gokoku Jinja throughout the year.

Translation 翻訳

靖國神社には、宗教や国籍の違いを超えて、年間500万人もの人々が訪れます。
8月15日（終戦の日）には、朝から夕暮れまで靖國神社への参拝者が途切れることはありません。日本に於いて大東亜戦争と言われる戦いは、第二次世界大戦の数年前に始まりました。この日は、その先の大戦の戦歿者を追悼する日なのです。正午には、御霊への追悼と敬意、さらに平和への願いを込めて、一斉に黙祷が捧げられます。日本人にとって、終戦の日とは特別な日なのです。
靖國神社や護國神社とは、祖国の平和のために礎となられた先人たちに感謝と敬意を捧げる場所であるとともに、日本の平和と繁栄が末永く続くことを祈る場所でもあるのです。それ故に、年間を通じて、多くの人が靖國神社や護國神社に訪れるのです。

Commentary 解説

日本人にとって毎年8月15日は「終戦の日」であり、戦歿者追悼の象徴的な日ですが、多くの外国人にとっては馴染みのあることではありません。米国人にとっては5月最終月曜日が戦没将兵追悼記念日（Memorial Day）、ドイツ人にとっては11月第3日曜日が国民哀悼の日（Volkstrauertag）であり、各国はそれぞれの国情にあわせて、戦歿者追悼の日を設けています。
諸外国の人々がそうであるように、日本の国民は日本の戦歿者追悼の日として8月15日にそれぞれ平和を祈っていますが、これは靖國神社や護國神社も同じです。靖國神社の祝詞では「御国（みくに）の鎮（しずめ）」である御霊に対して、「四方（よも）の海」を「波風不立（たたず）浦安の国」としていただくよう祈っています。欧米の報道ではwar shrine（戦争神社）と表現されることが多い靖國神社ですが、単に兵士を讃えるだけの施設なのではなく、世界（四方の海）の平和（浦安の国）も願う神社であるということを伝えてゆくことが大切です。

06 *Eirei*: Kami Who Are Enshrined at Yasukuni Jinja

英霊：靖國神社に祀られた神

The *kami* enshrined at Yasukuni Jinja and the Gokoku Jinja have a special name: '*Eirei*'. This is close in meaning to 'The Glorious Dead' in English. However, *Eirei* are part of the Shinto tradition. They are *kami* who are enshrined at *jinja* where people pray for the repose of their souls.

Today, many events and rituals are held at Yasukuni Jinja, such as daily offerings of sacred dance, annual rituals, the spring cherry blossom festival, the summer lanterns festival, Noh theatre, sumo wrestling, pro wrestling and many more. From 1871 to 1898, even horse racing was held on the *jinja* grounds. To entertain the *Eirei*, various traditional arts are also performed as offerings. These events are intended to comfort and amuse the enshrined *Eirei* by dedicating events that they enjoyed when they were alive.

At Yasukuni Jinja and the Gokoku Jinja, Japanese people perform *irei* to comfort the spirits of those who gave their lives for their country, and to pray for continuing peace. In these places, a universal human impulse is expressed through the ancient Japanese tradition of Shinto.

Translation 翻訳

靖國神社や護國神社に祀られる神は、特に「英霊」とも呼ばれます。この意味において英語の「The Glorious Dead（栄光ある死者）」と似ていますが、英霊は神道の信仰の一部です。英霊は神社に祀られる神であり、人々がその御霊の平安を祈ります。

今日、靖國神社では、永代神楽祭や様々な恒例祭、さくらまつり、みたままつり、能、相撲、さらにはプロレスなど、さまざまな行事や祭祀が催されています。明治時代には境内で競馬も行われていました。英霊にお楽しみいただこうと、さまざまな芸能も奉納されています。祀られる英霊が生前に楽しんだ行事を奉納することで、英霊をお慰めしようというものです。

靖國神社や護國神社は、日本人が祖国のために自らを捧げた同胞の御霊の平安を祈り、平和な世が続くことを祈る慰霊が行われる場所です。つまりは、普遍的な人間の衝動が日本古来の伝統である神道を通じて表現されている場所なのです。

Commentary 解説

英国ロンドンのホワイトホールに1920年に建設された戦歿者記念碑セノタフ（The Cenotaph）には、ただ「The Glorious Dead」とのみ刻まれています。このセノタフでは毎年11月11日に近い日曜日、全戦歿者を追悼する行事（Remembrance Service）が催されていますが、少なくとも欧米社会では戦歿将兵（Fallen Soldiers）が一律に神や聖人として祀られるということは見られません。この点で、日本文化のなかで神として祀られる「英霊」との違いは明白です。

なお、日本の戦歿者追悼行事と言えば毎年8月15日の「全国戦没者追悼式」ですが、この政府式典は宗教的に中立であるとされます。「追悼」という言葉は死者を悼み悲しむという意味であるため、宗教的な霊魂を前提とはしない語句だからです。式の英訳も「The Memorial Ceremony for the War Dead」となっていて、“霊を慰める”という意味が含まれてはいないのです。それでも、壇上の標柱の文字が「全国戦没者之霊」であるのは、とても日本的と言えるのかもしれません。

神社本庁

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-1-2
TEL.03-3379-8011 FAX.03-3379-8299
www.jinjahoncho.or.jp

IREI, the Spirituality of the Japanese

令和七年三月一日 第一版発行